

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078100080		
法人名	有限会社 里心		
事業所名	グループホーム里心		
所在地	福岡県八女市黒木町桑原277-1		
自己評価作成日	平成30年2月16日	評価結果確定日	平成30年11月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

地域の連携を大切に考え、御入居者様に真心こめた介護に努めています。季節を取り入れた野菜を使用し、御入居者様に少しでも、季節を感じて頂く様に心がけています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成30年3月20日		

平成28年11月に、山あいの事業所から、町中に新事業所を新築し移転した。敷地は広く、建物内も広く明るい。左右対称の2ユニットで、間のテラスにはベンチ等が置かれ、おやつ作りや日光浴を楽しまれている。近くの神社や川は散歩コースになっており、町中に移転した事で、入居者と近くのコンビニに歩いて買い物へ出掛けられるようになった。移転後に職員全員で考えて新たな理念を作成し、「まごころケア」をモットーにあたたかい思いやりのある介助を提供している。事業所内で、年4回開催予定でサロンを開設しており、社会福祉協議会等や地域の方の参加も多く、餅つき大会と一緒に開催した時は地域の方の参加が50名もあった。災害時は、事業所を避難場所として使える事を地域の方に回覧版で伝えている。これから先も地域に根付き、地域に貢献していく事が期待できる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成28年11月より、新しい建物に引っ越しを行い、それを機に、新しい理念をスタッフみんなで考えて作り、全スタッフ共有し実践している。	新しい理念を事務所内や各フロア内に掲示し、毎月1回のミーティングで唱和することにより振り返り、統一した意識で日々のケアの実践に生かしている。各職員に、「介護とは何が大切か」を年間の目標として考えて貰い、目標や意識をもって「まごごろケア」に取り組んでいる。	あらたな理念を月1回は振り返り、さらに各職員に、年間の目標として「介護とは何が大切か」を考えて貰っている。また、年1回管理者が面談を行っているが、各個人の目標を紙面に残す事で、的確なアドバイス等が出来るようになる事に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、愛好作業に参加したりしている。又地域のいきいきサロンの会場にグループホームを使っていたり、毎年9～10月には里心祭りを開催し、地域の方に喜んで頂いている。	町内会に加入し、事業所が地域の避難場所として利用出来る事を回覧板で回して知らせており、年4回の地域の清掃活動には職員と入居者と一緒に参加している。系列の小規模多機能施設やケアプランセンターと合同で行う秋祭りは、地域の小学校の参加やボランティア等の支援を受けて出店等もある。職員と入居者等も一緒になって賑やかに開催し、地域とのつきあいを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の訪問や運営推進会議等で認知症とはどういうものかを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様に対し、どのような行事が好まれるか等、話し合う中で利用者様へのサービス向上ができています。	運営推進会議議事録は玄関の傍りに掲示し開示している。総合支所や社会福祉協議会や区長や老人クラブ等の参加で定期的で開催され、インフルエンザの情報もいち早く小学校学級閉鎖の情報を貰い、事業所で早目にインフルエンザの予防措置を講ずる事ができた。	運営推進会議に家族の参加が少ないため、今後は会議内容の報告等を行なって参加を呼び掛け、意見を抽出する事で、さらに会議が運営に活かされていく事に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月ごとに開催される研修会に参加し、情報の共有を行いながら、協力関係を築けている。	介護保険の更新申請は直接、八女市本庁へ行き手続きをしている。事業所の空き情報を伝えたり、顔なじみの関係の構築が出来ており、相談は直接電話している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はないが、身体拘束マニュアルや年2回ほどの身体拘束の研修を行っている。	身体拘束委員会による「身体拘束0への取り組み」が行われており、年2回定期的に内部研修会を開催し、職員に周知し身体拘束も行われていない。玄関は日中施錠しておらず、昨年外出された入居者には職員が付き添って一緒に出掛け、落ち着いたから戻った経緯があった。やむを得ない事情や事案が出てきた時に備えて、用紙も整えている。	

H30.3自己外部評価(GH里心)4.24

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が絶対ないように、ミーティングでの内部研修を行っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・ケアマネほ充分に理解しているが、職員の把握が完璧ではない。	入居以前より成年後見人制度を利用されていた方もおり、ホーム長が外部研修後に、年1回内部に伝達研修をおこなっている。職員も大まかな理解は出来ており、相談があった時は管理者へ繋げる対応が行われている。パンフレット等の説明資料も常備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、一通り説明をした後、分かりにくい点や納得いかない点について詳しく説明し、納得いただいてから契約して頂く。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見は随時。ご家族様の意見は、面会時や電話にて聞けるようにしている。	秋祭りの時に家族会を定期的に年1回開催し、事業所の報告等を行なっている。家族会や面会時に家族から意見や要望を聞き取るが、個別の要望が多い。要望にはすぐ対応し、家族に結果を報告し、職員には朝・夕の申し送りや月1回のミーティングで周知対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に聞いている。	日々の食事の献立を以前は各職員が考えて、各自で作成しており大変な状況だった為、2か月前に職員の提案で、給食委員会も一緒にメニュー作成に関わるようになった。結果食材の余りも少なくなり、偏る事無くバランスの取れたメニューになっている。職員の意見も出し易く、管理者にも直接言い易い環境が整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップに応じた労働条件を明記している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	誰であっても、希望があれば面接を行った後検討している。	20～70歳代の職員が就労しており、年齢を問わず採用され、新入職員には、職員1人が付き指導している。管理者にも、その都度相談出来る環境で、年1回は個別面談もあり、意見等も言い易い。研修促進委員会が研修会も取り纏めており、研修会案内や、資格取得に向けての研修案内も積極的に薦められており、参加する事も出来、オレンジリングの資格取得者も数名いる。	

H30.3自己外部評価(GH里心)4.24

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティング時内部研修を行っている。	人権研修や啓発活動は、外部研修後のミーティングで内部に伝達研修をしたり、ネットから検索した内容で内部研修をおこなっている。ミーティング後に各ユニットに分かれての話し合いも行い、人権を尊重した対応が取られている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加、内部研修を行うことで、ケアの質を高めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月の研修等に、参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、本人の希望を聞いた上でケアプランを多たて、プラン通り実践している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族の悩みを聞き、気になること等あれば、24時間電話相談も受け付けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人に対し何が一番必要かを見極め順番にサービスを行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者、スタッフ共に家族のように時間を共有している。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の意見、ご家族様の意見双方の立場を考えて、本人様を支えている。		

H30.3自己外部評価(GH里心)4.24

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別でも行きたい場所や、自宅等に行けるように心がけている。	顔馴染みの友人の来訪があり、昔からの趣味で囲碁や将棋をしている入居者もいる。要望で、足湯に行ったり、洋服屋に行く事もあり、帰りたいと希望される方には、家族に連絡して対応を相談している。理解力低下で帰宅願望の強い方には、職員送迎で自宅近くを見て回る事で、安心されて戻っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人が好きな利用者様もいらっしゃる為、すべての利用者様が支えあえるような環境にはできていない。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、相談できる仕組みを作っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人聞き取りができない場合はご家族に聞いたりしながら、意向を把握している。	入居時に、主にケアマネージャーが独自のアセスメント表を使用して記入している。6カ月後に関わった日頃の状況等を職員から聞き取ったり、カンファレンスで話し合っモニタリングしている。状態の変化があった際や、6ヶ月ごとの定期に再度記入し、意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始に至るまでの生活歴等は、きちんと把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を、穏やかに暮らせるように配慮している。有する能力がある利用者様については、お手伝い等行っていただいている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング時に一人一人のカンファレンスを行い、必要に応じて介護計画の変更をご家族様の了承を頂き、変更する。	職員1人で入居者約2人を担当し、各担当者が状態を把握し、ケアマネージャーが各担当者に確認している。各ユニットで月1回ケアカンファレンスをしており、状態変化時や、6カ月に1回、管理者とケアマネージャーで介護計画書を作成し、職員は申し送り等で周知している。	サービス担当者会議議事録の代わりにケアカンファレンス記録があるが、更に、家族の意向や医師の意見等も含めた記録となる事が望まれる。介護計画に添って、介護日誌に記録が行なわれているが、出来る範囲で、簡単に記入出来る工夫される事にも期待したい。

H30.3自己外部評価(GH里心)4.24

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を大きなこと小さなこと関わらず記録し問題解決に努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、可能な限り本人の意思を尊重し、柔軟な対応を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協力施設での行事に参加している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間のオンコール体制を築けている。	月1回提携医の訪問診療があるほか、毎日病院の訪問看護師が来訪し、体調変化のある時は医師に報告し対応しており、日頃の体調管理がなされている。他病院受診の入居者も5名おり、施設で送迎しているが、受診日が決定した時は必ず家族に電話連絡し、受診後も連絡している。職員には申し送りしや、申し送りノートで共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日の往診を行ってもらい、病気の早期発見に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はご家族様と一緒にスタッフも同行し現状を病院に伝えている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から重度化・終末期の話をしご家族様に考えて頂きながら、終末期を迎えて頂くよう配慮している。	昨年の移転後より、3名の入居者の看取りを行っている。入居時に看取り指針を説明し、重度化・終末期の同意書を記入してもらい、状態が悪くなされた時に再度看取りの確認し同意書を取っている。終末期の在り方や病状を、医師や訪問看護師に話や説明を受け、職員も共有し、終末期の対応をしている。	

H30.3自己外部評価(GH里心)4.24

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回応急救護の講習に参加している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を地域の方にも参加してもらい行っている。	年2回の昼夜を想定しての避難訓練は、2回とも消防署立ち合いで行っており、AEDの操作や、消火訓練の指導も受けている。事業所を移転し、マニュアルや連絡網等の修正も行っている。地域には声掛けをしているがまだ参加はなく、今後も声掛けを行っていき、倉庫が完成してから備蓄も検討予定。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対し常に敬語を心掛けているが、利用者様との関係性を考慮した場合はそのかぎりではない。	毎年定期的に内部研修を行ない、職員は周知し、入居時に写真等の同意も取っている。なるべく、自分が言われたら嫌な言葉は使わない様になっている。地元の言葉や敬語を使用し、トイレの声掛けも小さな声で声掛けて、個人を尊重した声掛け等で対応している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何をすることも、声掛け同意後行う。意思疎通が取れない場合は声掛けを行うことを徹底している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中に時間の括りは設けていない。その時に応じた、対応を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性であれば、お出かけ面会の際、化粧をしたり、男性は髭が伸びていないか等、常に清潔感のあるよう心掛けている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片付けまで、関われる利用者様には常にかかわって頂き、食事の時間を楽しいものにしていただいている。	入居者に食べたい物を聞き、職員や給食委員会で半月分のメニューを決めて、職員が購入しているがたまに利用者と一緒に買物に行くこともある。職員が調理し、治療食も対応でき、職員も同じ食事を一緒に食べている。外食やお弁当を注文したり、入居者と一緒に毎月の誕生日ケーキや手作りのおやつを作り、広い敷地内で焼きそばを作ったりと楽しまれている。	

H30.3自己外部評価(GH里心)4.24

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に応じた、食事量・水分量を提供している。欲しいと言われた際は、制限のある方でなければ、十分に提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは必須だが、嫌がられる際は無理に行わない。義歯の方に関しては夕食後～就寝前に外して頂き、翌朝朝食前に着けて頂く。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合った、排泄介助を行っている。オムツ、紙パンツその人に合った物を使用し対応している。	介護日誌に、各入居者の排泄の時間も記録し、詳細に「ズボン汚染あり」等の特筆事項も書き添えて記入している。夜間は大き目のパット使用の入居者も、日中は時間を見て誘導する事小パット使用で対応している。失敗があった時は、他入居者に気づかれない様に声掛けして自室へ誘導し、恥ずかしくない様に対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤での対応、便秘体操で予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の好き嫌いがあるが、極力入りたい時に入浴して頂く。嫌いな方に関しては、3日以上入らないということが無いように、対応している。	週2～3回の午前や午後の個浴で、1日に2～3名がゆっくりと入浴し、毎回お湯を入れ替えて好みの湯温で入浴出来る。午前中に入浴を嫌がられても、午後に再度声掛けし入浴出来、2ユニットには機械浴もある。シャンプーや石鹸の持ち込みは自由で、季節のゆずや菖蒲湯等で入浴を楽しまれている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は本人に決めてもらっている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬に関する知識が完璧ではない。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人で楽しみなことをされている。		



H30.3自己外部評価(GH里心)4.24

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望のあったことは可能な限り実現している。	小規模施設の車も借りて、入居者全員で季節の花見や、くつろぎの森グリーンピア八女等に行っている。近くの神社にお参り兼ねて散歩に日常的に行っており、入居者と一緒に近くのコンビニへ歩いて買い物に出掛ける事もあり、片道5分程度歩いて、藤の里ホールへ、催し物を見に行ったりと出掛ける事も多い。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行わせていない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新規の建物になり、建築計画の時点で、工夫をしている。	両ユニットは左右対称に作られており、中央にテラスがあり、ベンチやプランターの花が置かれている。テラスでは日光浴やお好み焼き等のおやつ作りを楽しまれている。職員の詰め所より、リビングや廊下や居室がほぼ一望出来る作りとなっており、見守りが出来る。花や観葉植物が置かれ、壁等もすっきりと気持ちよく飾られ、清潔で開放的な空間作りがされていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを並べ、皆さんで談話したりしながら、楽しまれている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人様の好まれるものを置いている。	詰め所から、殆どの居室のドアが見え、安全確認等ができる様になっている。室内はベットと箆筒とスチール棚が設置されており、持ち込みは自由である。仏壇やテレビやドレッサーやぬいぐるみ等を持ち込まれており、入居者の好みに合わせた居室作りがされていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新規の建物になり、建築計画の時点で、工夫をしている。		